

日本の気候は大きく変化してきた

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

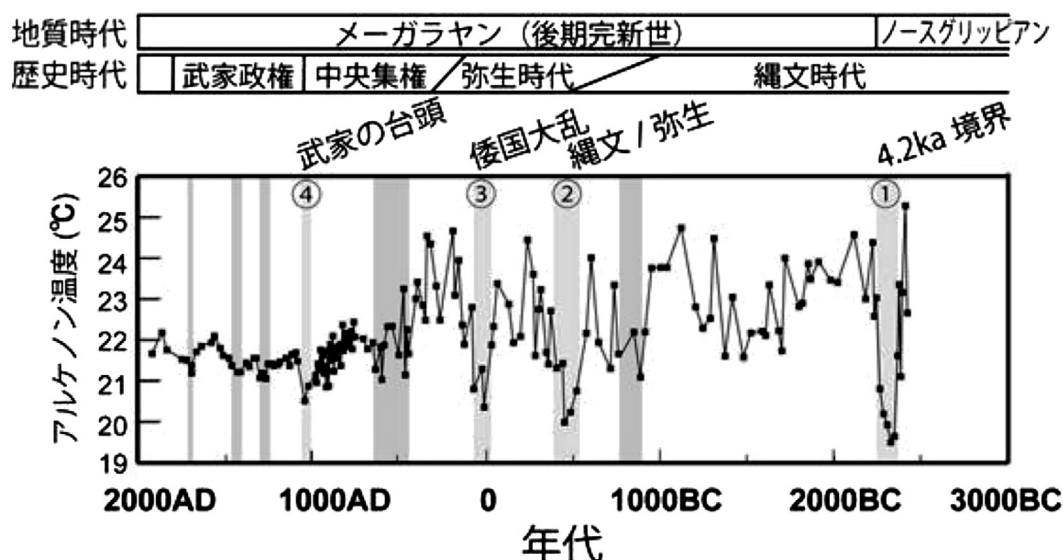
IPCC の 2021 年の報告によれば地球の気温は過去 150 年ほどで約 1.2℃ 上昇したという。これを以て未曾有の気温上昇だとする意見があるが、地球規模の平均気温の推計についてはデータが限られているためにおおいに議論の余地がある。

データがよりはっきりしているのは地域的な気温の変化である。今回は日本のデータを見てみよう。すると、少なくとも地域的には、気温は大きく変動してきたことが分かる。

気温の推計方法はいくつもあるが、以下では海底に堆積したプランクトンの化石を用いたデータを見てみよう。

水温が変わると、そこで繁栄するプランクトンの種類が変わるので、海底での堆積物も変わる。その堆積物の地層を分析することで、過去の気温を推計することができる。

東京湾の表層水温は図 1 のように復元された。



海洋堆積物コアのアルケノン分析から明らかになった、過去4400年間の東京湾の表層水温変動。緑のハッチは特に大きな寒冷化があった時期を示す。

図 1 出典：東京大学 大気海洋研究所¹

¹ 東京大学 大気海洋研究所 HP <https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/research/topics/2020/20200225.html>